

リスクに基づく合理的な化学物質管理の促進のための検討会 背景・目的(国内外の現状)

資料1-1

国内外の状況

国外の化学物質管理において、リスクに基づく管理が基本となる一方で、国内においても、化審法等においてリスクに基づく管理を基本とする規制への転換が進んでいる

● 国外

- ・ 持続可能な開発に関する世界サミット(WSSD、平成14年)における合意目標
「予防的取組方法に留意しつつ、透明性のある科学的根拠に基づくリスク評価・管理手順を用いて化学物質が、人の健康と環境への著しい影響を最小化する方法で生産・利用されることを、2020年(平成32年)までに達成する」
- ・ 国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ(SAICM、平成18年)
WSSDの目標を達成するためのロードマップとして取りまとめられ、「世界行動計画」が示された
- ・ REACHにおいてリスクベース管理を導入

● 国内

- ・ 化学品の少量・多品種生産の進展、生産工程の多様化・複雑化により、作業毎に柔軟な措置を取る必要性の増大
- ・ 改正化審法においてリスクベース管理を導入

※ リスク = ハザード × ばく露の機会

職場における化学物質管理についても、リスクアセスメントとそれに基づく措置の実施の観点から検討を行った